



札幌西支部

池脇 竜太
Ryuta Ikwaki

タイトルは父が生前に書き残していたフレーズです。

池脇会計事務所は、父が創業して3年ほど経過した頃に、廃業の危機を迎えています。もちろん、資金的に厳

しかったこともあります。何より、父が税理士という職業に対し面白みを感じなかったから、だそうです。

折しも、飯塚毅先生との出会いがあり、先生の考え方に感銘を受けて“会計人”を続けることになりました。現在、池脇会計事務所が存在しているのは、飯塚毅先生のおかげと言っても過言ではありません。

私自身は、小学校の文集で、“将来なりたい職業は税理士”と書いていました。ただ、父からは会計事務所を“継げ”と言われたことは一度もありません。むしろ、本当にやるのか？やめた方が良いのでは？と言われていました。私の能力や適性を考えての発言かもしれませんが、父自身も苦労の連続であったからだと思います。にもかかわらず、常日頃からこの仕事のやりがいをお口にしていました。子供ながらに、仕事を楽しくて生き生きとしている父親の姿をみて、この職業に魅力を感じていました(ある意味父の作戦通りなのかもしれません)。

また、事務所としては、今から30年ほど前には承継準備がある程度出来上がっていました。上記の通り、息子はあまり当てにできないので、誰が後継者となっても事業が回る仕組み

を考案し、実践していました。そのため、顧客の繁栄を願い、曲がったことは許さない風土や、誠実で真摯な幹部をはじめとした“人財づくり”がなされていました。

そして2020年4月、遅まきながら所長を継がせていただきましたが、そのような風土や仕組みができていたおかげで、比較的スムーズに承継させていただいたと思っています。残念ながら同年12月に父は他界してしまいました。まだ安心するには早すぎますし、これから自分の次の人生を謳歌して欲しかった、と思う一方で、なすべきことを計画的に行い、そして旅立つあたりは去り際まで父らしいとも感じました。

この自分の体験を通して、事業承継における組織づくりの重要性を改めて実感しています。また、親がやりがいをもって楽しそうに働き輝いていること、すなわち、生き生きとしていることが、子供たちに対していかに大事なことが、と感じています。この生き生きとしていることの重要性は従業員に対しても同様と思います。

このページは本来自分自身の紹介をすべき場かもしれませんが、私がこの場にあるのは、間違いなく父や先輩職員が礎を築いてくれたおかげであります。また、株式会社TKCの皆様そして全国会の諸先生方には父がこれまで大変お世話になりましたので、この場でお礼を申し上げたく、このような内容にさせていただきました。

私自身はまだ勉強不足・力不足であります。諸先輩の先生方には引き続きご指導・ご鞭撻を賜りたいと存じます。よろしく願いいたします。